封戸保育園だより

２０１９（令和１年）

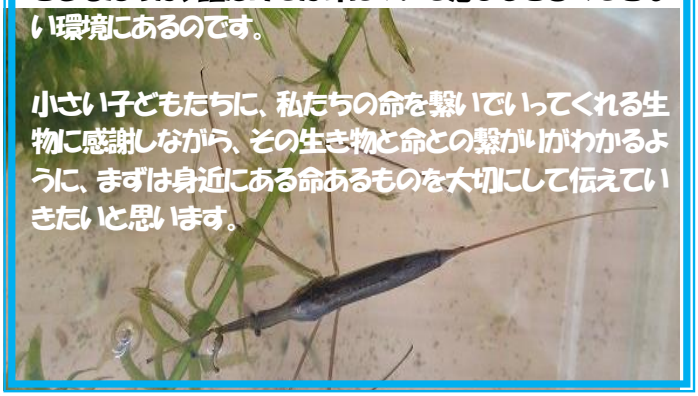
９月

No，５８１

【編　集・発　行】
封 戸 保 育 園
0978 - 22 - 3677

◆「子ども連れＯＫ」は「子どもが何をしてもいいというわけではありません」ある育児雑誌に掲載された「お願い」の文章です。
◆「子連れＯＫ＝子どもの面倒見ないで放置してもＯＫ」と自分に都合の良い解釈をしてしまったのかもしれません。
◆子どもたちは真似て成長していきます。真似をする中で「自分だったらこうしたら面白い、こうしたい」という興味・関心から考え行動に移します。
◆これが年齢が上がると「一緒にする仲間を集めます」こうして社会性、コミュニケーションを培います。
◆子どもの一番最初に真似るのは・・・両親です。昔から「子どもは親の背中をみて育つ」と言います。
◆叔父や叔母に「似てきたね」と言われませんか？意識するのではなく自然と似てしまうところ反対に意識してこうしたくないと思うことも。
◆マナーとは・・周りの人に迷惑をかけないだけでなく、ルールも伝えていくことにより周りも自分も楽しめる事を知らせることが大切です。
◆小さな失敗を繰り返して成長していく子どもたち。最初、出来ないのがあたりまえ。繰り返し伝えていくとも親の大切な役割の一つだと思います。
◆「子どもは自分に自信が持てるようになると、いろいろな点で大きな飛躍をとげる。しかし、より重要なことは、それをきっかけに、子どもが生き生きとしてくるということだ。」
（ウェイン・Ｗ・ダイアー）

えほんにっきでもご紹介いたしましたが、ミズカマキリを2階のプールの所で採集してにじクラスで飼っていました。ヌマエビを一緒に。ミズカマキリは名前の通り肉食です。失敗を繰り返しながらも、ヌマエビを捕まえ、口吻を差し込み消化液を注入して溶けた肉液を吸います。（体外消化）当然、硬いエビの殻は残ったままです。
それを見て、職員が「えびさん　かわいそうにね。死んでいるね」と何気なく声をかけたところ、「いいんで！エサやけん」と一人の男の子が・・・確かに、どんな生き物も何らかの食べ物を食べなければ生きていくことはできません。
でも、人としてはその食べ物を「エサ」として捉えるのか、命をいただいているとして捉えるのかでは大きな違いがあります。ご家庭では、当然ですが牛を解体したり、鶏を解体したりはしません。魚でさえ、お刺身の状態だったり、切り身の状態だったりして購入し、食卓にあがります。生きていた時の形がわからないままに口に入ります。
こどもたちは、話だけでは命について感じることのできない環境にあるのです。



小さい子どもたちに、私たちの命を繋いでいってくれる生物に感謝しながら、その生き物と命との繋がりがわかるように、まずは身近にある命あるものを大切にして伝えていきたいと思います。

おたんじょうび　おめでとう！

８名のお友だちがお誕生日を迎えます

敬老の日

今年は、16日が「敬老の日」です。今の園児のおじいちゃん、おばあちゃんはまだまだお若くて、家族の中で高齢者と呼ばれる年齢に当たるのは、園児のひいおじいちゃんやひいおばあちゃんの方たちかなと思います。
核家族化が進み日常生活の中では、高齢者の方たちと過ごすことも少なくなってきている昨今ですが、保育園では５月と９月に水崎地区のおじいちゃんやおばあちゃんと触れ合い、公民館での運動あそびや園にお招きしてのふれあい遊びなどでの交流をしています。来て下さるおじいちゃんやおばあちゃんにとっても子どもたちの純粋な笑顔やお話は元気づけのパワーとなるようです。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	９月行事予定
月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	
					誕生会		秋分の日			避難訓練				敬老の日											バス遠足						